

小田原市文化振興審議会 第7回会議 次第

日時：令和4年10月28日（金）

14時10分～

場所：小田原市役所 3階 全員協議会室

1 開 会

2 委嘱状交付

3 市長あいさつ

4 議 題

(1) 小田原ならではの文化によるまちづくり基本計画の評価について

(2) 表彰制度（小田原市民文化アワード）について

5 その他

6 閉 会

		2030目指す姿	参考指標 (定量的)	目標の方向	R2	R3	R6目標値	2030目標値	R3年度の数値について	R3年度勘案すべき内容	文化政策課評価	文化政策課の所見
基本目標 1	施策1	文化を守り、伝える	小田原ならではの歴史や文化・伝統を、市民が広く認知・理解し、愛着を持って大切にするとともに、市民の多くが、その保存や継承に携わり、取り組んでいる。	文化財公開等事業の来訪者数	増	5,500人/年	7,182人/年	6,200人/年	総合計画		やや順調	コロナの収束が見えない中ではあったが、R2に比べ来訪者数は増となった。今後も継続的に取組を実施していく。
			小田原城天守閣入場者数	増	213,281人/年	374,506人/年	585,000人/年	総合計画・重点施策		文化財の周知のため、「小田原の文化財」を21年ぶりに改訂し刊行		
	施策2	文化資源の保存と活用	歴史的建造物等の利活用が充実し、多くの人々が建造物を利用し、訪れ、広く親しまれている。	文化部の管理する歴史的建造物での、イベント等実施回数(日数)	増	未調査	297回/年	96回/年	192回/年	旧松本剛吉別邸 15回 皆春荘 3回 松永記念館 200回(特別展含む) ・収蔵日本画展 ・お茶する、遊ぶ、生活する 一耳庵が愛した記念館 ・近代数記者の書一鈍翁・幻庵・耳庵・夜雨一 ・受贈記念特別展 近藤弘明一幻庵一 文学館 79回(特別展含む) ・北村透谷「楚囚之詩」原本 特別展 ・川崎長太郎自筆原稿「独身返上」 特別展 ・水原秋櫻子 藤田湘子宛書簡 特別展	【イベント参加人数】 旧松本剛吉別邸 623人 皆春荘 110人 松永記念館 7,240人 文学館 1,744人 【内容】 ・建物見学会 ・呈茶 ・マルシェ等	やや順調
			歴史的建造物の入場者数	増	31,115人/年	77,370人/年	93,000人/年	総合計画	松永記念館 11,583人 清閑亭 19,277人 文学館 4,509人 なりわい交流館 38,102人 旧松本剛吉別邸 2,022人 皆春荘 1,877人	小田原市が持つ歴史的資源を積極的に活用した、小田原らしいまちづくりを推進する「小田原市歴史的風致維持向上計画(第2期)」スタート(計画期間R3～R12の10年間)		
基本目標 2	施策1	文化・芸術拠点である市民ホールの活用	市の文化・芸術活動を推進する拠点としての機能が確立され、全市民が一度はホールを訪れて様々な文化・芸術に触れており、さらに多くの人々が集い交流が図られている。	市民ホールの入館者数	高止まり維持	0人/年	137,149人/年	50万人/年	(R4.3.31時点)	R3.9.5オープン	やや順調	R3.9のオープンとともに、様々な市内の団体に利用してもらおう市民優待事業を実施した。利用者の意見を取り入れながら、より利用しやすいホールの運営を目指す。
			市民ホールでの事業実施回数(日数)	維持	0回/年	433回/年	2,500回/年	2,500回/年	(R3.9～R4.3) 大ホール 104回 小ホール 101回 スタジオ 58回 展示室 129回 ギャラリー回廊 41回	【稼働率】(R3.9～R4.3) 大ホール 54% 小ホール 52% スタジオ 30% 展示室 67% ギャラリー回廊 21%		
	施策2	文化活動への支援	市民自らが文化活動を行うための相談・情報提供等の支援体制が整い、発表などの機会の充実を図られている。	ホールのSNSフォロワー数	維持	0件/年	総数 2,271件	3,000件	3,000件	(R4.8月時点) Twitter フォロワー数 1,072 インスタ フォロワー数 921 Facebook フォロワー数 278	(R4.8時点) Twitterツイート数 1,228 インスタ投稿数 245 YouTubeアップ数 4	やや順調
			市民ホールHPのアクセス数	維持	0回/年	117,058回/年	90,000回/年	90,000回/年	2021.9.1～2022.9.21のアクセス数	R3年度 市HP文化・芸術ページアクセス数 53,697		
基本目標 3	施策3	文化・芸術に触れる身近な機会の充実	日常生活により身近な場所でも、文化・芸術に触れる機会が創出され、市民の文化活動の充実が図られている。	市の文化事業(展示会等)が、身近な場所で開催された回数(日数)	維持	0回/年	0回/年	15回/年	15回/年		取組中	計画していた事業はあったものの、コロナで中止となった。今後、事業の実施を目指し取組を進める。
			市の文化事業(公演)が、身近な場所で開催された回数(日数)	維持	0回/年	30回/年	24回/年	24回/年	学校アウトリーチの実施回数	ストリートピアノは、コロナのため中止。 市民団体が、基本計画に沿った取り組みの一つとして子ども向けWSを開催 (小田原城アートNOW梅華展 小学生の風車作成WS)		
	施策1	文化を支える地域と人材の育成	地域の伝統行事等を通じて世代間の交流が図られるとともに、人材育成のためのプログラム等が確立し、充実している。	アウトリーチ事業参加児童生徒の満足度(5点満点)	増	未実施	4.6点	4.3点	4.8点	アウトリーチアンケートより	取組中	計画していた事業はあったものの、コロナで中止となった。今後、事業の実施を目指し取組を進める。
				小田原民俗芸能保存協会後継者育成発表会観覧者数	維持	開催中止	開催中止	500人	500人	R3 団体数に変更なし 8団体 カナガワ・リ古典プロジェクトin神奈川を三の丸ホールで開催 (下中座、小田原ばやし多古保存会の発表)		

		2030目指す姿	参考指標 (定量的)	目標の方向	R2	R3	R6目標値	2030目標値	R3年度の数値について	R3年度勘案すべき内容	文化政策課評価	文化政策課の所見		
基本目標 3	施策2	多彩な文化の発信	様々なツールを活用した情報発信が整い、市内に限らず広く誰でも簡単に情報を得られる。	SNS等を利用した文化情報発信の件数	増	29件/年	64件/年	36件/年	108件/年	メルマガ@おだわら文化 発信件数 33件 文化レポーターFacebook 発信件数 31件	メルマガ@おだわら文化 登録者数 1,561人 神奈川イベントカレンダー(マグカル)年4回発行	取組中	目指す姿の達成へ向け、幅広い情報ツールの安定的な確保と、発信内容の充実に努める。	
				情報誌等の発刊回数	増	0回/年	0回/年	4回/年	8回/年	文化政策課が発行に関与する文化情報誌を想定	R4年度中に文化レポーターによる紙媒体での情報発信を検討			
	施策3	市内外の交流の促進	姉妹都市等と、歴史・文化の点においても広く交流が図られている。	国内姉妹都市・友好都市との文化交流事業実施回数	維持	0回/年	0回/年	2回/年	2回/年		交流事業はコロナのため中止。	取組中	計画していた事業はあったものの、コロナで中止となった。今後も継続的に取組を実施するが、社会情勢に合った形で進めていく必要がある。	
				海外姉妹都市・友好都市との文化交流事業実施回数	維持	0回/年	1回/年	2回/年	2回/年	オンラインにて、チュラピスタと海外姉妹都市提携40周年式典を実施	国内交流について、姉妹都市・八王子市のご当地グルメ・八王子ラーメンに、「下中たまねぎ」を使用したラーメンを期間限定で販売し、食を通じた交流を行った。			
	施策4	様々な分野・人材・団体等との連携	地域や様々な分野の人・団体と多岐にわたって連携し、文化に触れる機会が提供され、協働して文化活動が行われている。	文化に関する名義公演の件数	増	24件/年	45件/年	50件/年	75件/年				やや順調	今後も継続して進めることで、目指す姿の達成が見込まれる。
			市民学校修了生の担い手実践活動人数	増	36人	85人	90人	総合計画	【活動分野】福祉8人、子ども10人、自然16人、文化5人、地域20人、魅力発信14人、二宮尊徳12人					
施策5	産業・観光との連携による魅力の創出	産業・観光団体等と文化資源を活用したイベントや催しが行われ、文化観光が促進されている。	市の文化資源と産業・観光団体が連携して実施したイベント件数	増	未調査	22件/年	22回/年	48回/年	小田原観光協会(小田原市が出資)の実施事業のうち、歴史等の文化資源を活用して行われたイベント等	カラーテープアート(丸網小田原)14グループ、45人参加	やや順調	今後も継続して進めることで、目指す姿の達成が見込まれる。		
			一人当たり観光消費額	増	3,408円	3,420円	3,832円	総合計画						
基本目標 4	施策1	文化を創造する風土を高める	市民自らが文化活動に参加して相互に交流し、文化活動の振興が図られ、文化活動への取り組み体制や支援が確立している。	小田原を文化的なまちだと思ふ市民の割合	増	約7割		約8割	約9割		文化振興審議会における、文化振興策の検討	取組中	R3はアンケートを実施していないため、値は出ていない。文化振興審議会において新たな文化振興策の検討を行うなど取組を進め、目指す姿の達成を目指す。	
				小田原が文化活動をしやすいまちだと思ふ市民の割合	増	約3割		約4割	約6割					
	施策2	デジタル文化の活用	デジタル技術を活用した、リアルとバーチャルが融合した公演が実施されるなど、より広く充実した文化活動が行われている。	文化部内で、文化資源をデジタルアーカイブ化した件数	維持	未調査	4,942点/年	5,000点/年	5,000点/年			R5.4創設に向け、デジタルミュージアム事業を展開。 郷土文化館所蔵資料をはじめとした市が有する歴史的・文化的資料の高精細デジタルレプリカ等を作成。	やや順調	今後も継続して進めることで、目指す姿の達成が見込まれる。
				デジタル技術を使用し地域に届けられた文化活動の件数	維持	0件/年	11件/年	25件/年	25件/年	三の丸ホール実施事業のうち、ライブや録画で配信を行った件数				
	施策3	発信力を高める	広く世界に対して、市の情報や文化活動が発信される体制が確立し、参加と交流が図られる。	国外に対し、文化に関するプロモーションの実施回数	維持	0回/年	0回/年	3回/年	3回/年				取組中	目指す姿の達成に向け、継続して取組を進めるが、内容の充実を図るなどの検討及び指標の検討の必要がある。
			SNS等を利用した文化情報発信の回数	増	0回/年	64回/年	36回/年	108回/年	メルマガ@おだわら文化 発信件数 33件 文化レポーターFacebook 発信件数 31件	メルマガ@おだわら文化 登録者数 1,561人				
施策4	持続可能なまちをつくる	文化活動の推進により、次代を担う子どもの豊かな心と小田原に対する誇りを育むとともに、「小田原ならではの」感じられるまちづくりが進み、持続可能な社会に向かって推進している。	市民ホールでの子ども・青少年向け事業の実施回数(日数)	維持	0回/年	22回/年	750回/年	750回/年				やや順調	今後も継続して実施することで、目指す姿の達成が見込まれる。 各取組の、内容の充実を図っていく。	
			郷土の偉人(二宮尊徳)学習の実施	維持	25校/年	25校/年	25校/年	25校/年	尊徳記念館に出かけ学習 10校 尊徳記念館講師を招聘 9校 その他 6校	R3年度「郷土読本 小田原」の改訂				
			SDGsパートナー登録者数	増	142者	192者	260者	総合計画						

小田原市民文化アワード

概要

部門	アクション奨励部門 およそ過去1年間に実施された活動を表彰します	チャレンジ応援部門 これからの新しい活動を応援します
ねらい	市民が行う文化活動や、まちなかで活動している人、若い人たちに光をあて、表彰により活動をPRすることで支援する。 活動者が相互に評価することにより、活動内容に自信を持ち、継続につながる。 また、公募することにより行政も市民活動の多様性を確認し、まちなかや各地域にある文化の把握につながる。	小田原ならではの文化によるまちづくり基本計画に掲げる、年齢や障がいの有無に関わらず、全ての人が文化に触れられる機会を充実させること、また、産業・観光など他分野との連携による新たな魅力の創出を実現するなど、市民主体による新たな文化活動を促進し、その活動を通じて社会課題の解決を図る取組を支援し、自ら小田原の文化を継承、創造、発信していく意識を醸成する。
対象	1) 市内で行われている活動であること	1) 市内で行われる活動であること
	2) 小田原ならではの文化に当てはまり、小田原ならではの文化によるまちづくり基本計画の基本目標に沿う内容であること。	2) 小田原ならではの文化に当てはまり、小田原ならではの文化によるまちづくり基本計画の基本目標に沿う内容であること。
対象	3) 今後も継続して行われる活動であること。	3) 次の①、②、③に該当する活動であること ①教育や福祉等の分野を巻き込んで行われる社会包摂的な文化活動 ②さらなる魅力の創出のため、様々な分野と連携して、市内の歴史的・文化的資源を活用し行う他分野ネットワーク活動 ③社会課題の解決につながる文化活動
	例) ①より活動が活発になるよう工夫した、地域の祭礼行事などの伝統保存と子どもたちへの継承活動 ②各地域の活性化のために地域で行う文化活動②の具体例) ・国府津ブレンドで小田原オペラ開催	例) ①若手芸術家が小学校や介護施設で、子どもや高齢者に向けコンサートなどを企画 ②歴史的建造物を舞台に、観光と産業等、他分野同士が連携して新たな魅力ある文化を生み出すイベントの企画 ③アーティストが商店街と連携し、アートでまちの活性化を図る企画 ②の具体例) ・相模人形芝居・下中座が、ジャズ人形劇を日本語字幕付きで上映
想定される効果	・地域で実施している市民の文化活動をより多くの人に知ってもらうことで、新たな担い手の参加が見込まれる。 ・認められることにより、モチベーションの向上につながる。 ・表彰の場を作ることで活動者同士の交流が生まれる。	・新たな文化活動が実施されることで、文化に触れる機会が増え、文化のすそ野が広がる。 ・市民主体の新たな活動が生まれることで、多様な人々や地域がともに文化を創造していく風土が高まる。 ・新しい手法による魅力の発信や、課題解決につながるプレゼンを行うことで、活動者同士の連携や応援者が現れる可能性もある
賞	①委員による特別賞及び②市民チョイス賞(二次選考対象者にも投票権有り)(10件すべてに賞をつける。	
副賞	発表機会の提供・パネル展示など活動の広報トロフィー、活動継続費5万円	優れた企画に対する副賞10万円
表彰の流れ	活動実績書の提出 ↓ 一次選考(書類審査) ↓ 二次選考(公開選考会・最大10件) (1組10分程度のプレゼンテーションと質疑応答) (当日中に選考結果公表・表彰) ↓ 決定 ↓ 発表会での活動内容披露等	活動計画書の提出 ↓ 一次選考(書類審査) ↓ 二次選考(公開選考会・最大5件) (1組15～20分程度のプレゼンテーションと質疑応答) (当日中に選考結果公表・表彰) ↓ 決定 ↓ 活動報告書の提出(年度終了時)

実施方法

実行委員会形式で実施予定（文化振興審議会委員数名 + 外部より2名程度）

予算額

負担金 150万（うち半額はふるさと文化基金を活用予定）

※PRによる文化基金・寄附者の増加と地域のお金の循環を図るとともに、民間の協力者も募る。

選考基準

小田原ならではの文化によるまちづくり基本計画の、目指すまちの姿及び基本目標に則して、公益性、発展性、事業実現性、波及効果、計画への貢献度等、総合的に評価し、選考する。